

はじめに

高岩 義信 高エネルギー加速器研究機構

表記の研究会が平成 17 年 1 月 25 日と 26 日につくば市の高エネルギー加速器研究機構 (KEK) において開催された。第一部はその記録である。研究会での報告を紹介するのに先立ってこの研究会を開くことになった背景を少し述べておきたい。

2004 年の 4 月から国立の大学および大学共同利用機関は文部科学省から独立した法人としての設置に形態が改められた。それに伴い大学共同利用を掲げる研究施設は独立のもの (直轄研)、大学附置のそれぞれの事情に応じて状況が変わりつつある。そもそも大学共同利用機関がどのような経緯で要請されかつ認められてきたかを理解しておくことはこの変化に対応していくためには重要であるが、既にその経過は歴史研究の対象となりうるほどの過去のことになってしまっている。

大学共同利用機関に基礎を置く教育機関として、この問題と直接・間接に関わっている総合研究大学院大学 (総研大) が、大学共同利用および大学共同利用機関成立の歴史を研究の 1 つのテーマとして進めようとしている背景にはそのことがあるのだが、歴史研究を行おうとすれば、基礎資料として記録文書が欠かせない。しかしながらこのような研究機関では、史料の取り扱いが一定ではなかった。

総研大では、それぞれの研究機関が「史料室」または「アーカイブズ」を置いて、歴史に関わる記録資料を積極的に収集・整理保存する事業を進めることを支援し推進することを検討し始めたところである。その手はじめに、1 月の 25 日と 26 日にかけて、KEK の史料室と共催

で、研究および研究機関に関わる史料を収集整理することの重要性をアピールしようという意図もあって、この研究会を開くことになった。

共同利用の原点に立ち戻るならば、我が国においてそのアイデアが最初に大学附置の形態で実現されたのは、原子核・素粒子物理学の分野である。さらに、大学附置ではない文部省直轄の国立の研究所として設置されたのは KEK が最初のものであることを考えれば、KEK でこの研究会を開く理由は十分にあると言えよう。

今回、共同利用研の歴史を振り返るにあたって、原子核・素粒子に近い研究分野にしぼり、大学附置の共同利用研究施設・研究所の成立と利用の形態、および大学附置から独立した大学共同利用機関の成立について、当時の関係者（あるいはその近くにいた人）によるその構想と議論についての記憶と記録にもとづく証言を求め、また現在の視点からみた状況の事実関係の解読と分析を試みた。その中で、基礎となる史料による検証、史料的な検討を要求する課題を明らかにし、関連する史料の所在の点検とオーラルヒストリー（聞き取り調査）を含むさらなる史料の収集の可能性の確認を行うこと、そしてさらに、法人化に伴う大学共同利用の現在及び未来の問題を歴史の流れの中に置いて捉えてみることを目標とした。

この研究会で明らかにしようとしたことの1つは、原子核・素粒子物理学の分野で共同利用研究所の提案が初めてなされたときから、それは研究活動のセンターとして研究者の共同体で支えていこうとしていたことであった。そしてそれは共同利用の利用者（ユーザー）と研究機関の関係の原点であり、そこで提起された問題点とそれへの取り組みは、大学共同利用研究機関の在り方を考える上での一つの範型であると考えられる。

それを追求していく過程で、研究者の共同体の意図と設置主体である文部省の対応に差があり、その折衝の期間でさらに議論が深まったのか、ただ混乱しただけだったのか、意見が分かれるところである。だがそれはそれで、共同利用機関を通して研究体制を制御する仕組みが確立していく過程の実態をそこに見ることができるだろう。

他分野では、それとは異なった経緯で大学共同利用の形態をもつ研究機関が出てくるが、その成立の事情とくらべてみれば、原子核素粒子の研究者の考えていた共同利用の概念の特徴がよくわかると思われる。このほかにも、史料の収集整理のための方法論、施設の整備に関する課題は別に検討しなければならないが、それも含めて、第二部の総研大における研究会の報告とあわせてこの第一部の報告を読めば、継続して検討すべき課題がより明らかになるであろう。

今回、短い準備期間しかないにもかかわらず、快く講演を引き受けていただいた方々に深く感謝いたします。とくに、現役を退かれて、あるいはもう思い出すのも嫌であったかもしれない話を、若い世代の後継者に伝えておかなければいけないという強い使命感を発揮されて、講演するために参加していただいた大先輩の皆様に、深い敬意の念を表します。

研究会のプログラム

■ 1月 25 日(火曜日)午後

戸塚 洋二	開会の挨拶
高岩 義信	研究会の趣旨・高エネルギー加速器研究機構の史料室
菅原 寛孝	総研大・葉山高等研究センターのプロジェクト研究
登谷 美穂子	基研：大学共同利用研究所の誕生
近藤 一郎	乗鞍宇宙線観測所設置の経緯と運営の形態
菊谷 英司	原子核研究所とその共同利用
高岩 義信	原子核将来計画：素粒子研究所提案の背景
大林 治夫	プラズマ研究所の運営
小沼 通二	日本学術会議、特に原子核特別委員会から見た原子核将来計画と KEK 発足

西村 純 素粒子研設立をめぐる問題
 武田 暁 大学共同利用研究機関の成立

■1月26日(水曜日)午前

北垣 敏男 高エネルギー物理学研究所の設立(当事者から見た歴史)
 重藤 学二 共同利用機関の誕生
 高良 和武 フォトンファクトリー外史
 五十嵐 尤二 共同利用研究所の「再定義問題」と法人化
 板橋 隆久 阪大核物理研究センター(全国共同利用)の成立とこれからの課題
 平山 英夫 大学共同利用機関の法人化と機構化

■1月26日(水曜日)午後

平田 光司 討論・協議
 ・共同利用研の歴史研究のための資料の収集整理
 ・総研大・基盤研究機関のアーカイブズ

研究会の出席者

参加登録者は全部で45名であった。講演者には○を付してある。

赤井 和憲 高エネルギー加速器研究機構・加速器研究施設
 ○五十嵐 尤二 新潟大学・教育人間科学部
 石川 正 高エネルギー加速器研究機構・計算科学研究センター
 ○板橋 隆久 大阪大学・核物理研究センター
 伊藤 憲二 東京大学・先端科学技術研究センター
 植松 英穂 日本大学・理工学部
 鶴飼 熊太郎 高エネルギー加速器研究機構・計算科学研究センター
 氏家 宣彦 高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所
 内野 權次 筑波技術短期大学・名誉教授

- 遠藤 有聲 高エネルギー加速器研究機構・加速器研究施設
 遠藤 理佳 京都大学・基礎物理学研究所
 ○大林 治夫 核融合科学研究所・名誉教授
 鎌田 進 高エネルギー加速器研究機構・加速器研究施設
 ○菊谷 英司 高エネルギー加速器研究機構・加速器研究施設
 ○北垣 敏男 東北大学・名誉教授
 木舟 正 信州大学・工学部
 木村 一枝 核融合科学研究所・核融合アーカイブ室
 黒川 真一 高エネルギー加速器研究機構・加速器研究施設
 ○高良 和武 高エネルギー加速器研究機構・名誉教授
 ○小沼 通二 慶応大学・名誉教授
 小間 篤 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所
 ○近藤 一郎 東京大学・名誉教授
 ○重藤 学二 井上科学振興財団
 柴崎 孝 高エネルギー加速器研究機構・総務部長
 ○菅原 寛孝 総合研究大学院大学・葉山高等研究センター
 関本 美知子 高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所
 ○高岩 義信 高エネルギー加速器研究機構・史料室
 高橋 嘉右 高エネルギー加速器研究機構・史料室
 ○武田 暁 東北大学・名誉教授
 田島 俊之 北海道大学・大学院理学研究科（博士課程）
 ○戸塚 洋二 高エネルギー加速器研究機構・機構長
 ○登谷 美穂子 京都大学・大学院理学研究科
 難波 忠清 核融合科学研究所・核融合アーカイブ室
 ○西村 純 宇宙科学研究所・名誉教授
 野澤 稔 高エネルギー加速器研究機構・学術情報課長
 野村 亨 高エネルギー加速器研究機構・名誉教授
 平田 光司 総合研究大学院大学・葉山高等研究センター
 ○平山 英夫 高エネルギー加速器研究機構・放射線科学センター
 三浦 靖子 高エネルギー加速器研究機構・史料室

水野 義之	京都女子大学・現代社会学部
村上 政隆	自然科学研究機構・岡崎バイオサイエンスセンター
山口 嘉夫	東京大学・名誉教授
湯浅 富久子	高エネルギー加速器研究機構・計算科学研究センター
横山 広美	総合研究大学院大学・葉山高等研究センター
吉岡 正和	高エネルギー加速器研究機構・加速器研究施設